

〈インタビュー記録 1班〉

対象者：I氏

テーマ：総合科学部について

インタビュアー：藤田・田村

◎「総合的に『学ぶ』ということ」

入学にあたってーオープンキャンパスでの「大学」との出会い

私が徳島大学総合科学部を志望したのは、私が徳島県出身であり、また、家の事情でお金のかからない学校ということで、地元の国公立で志望するコースもあるということからこちらに選びました。当初志望していたコースは心理でした。しかし心理というと絞られてくるので徳島大学の人間行動コースを志望し、決めました。

徳島大学のオープンキャンパスには参加し、改修前の 301 で心理の授業を普通に受けました。超満員でとても暑かったのを覚えています。人気の授業だったので立ち見もいました。そのときの大学の印象はあまり覚えていないのですが、校舎は古いと思いました。それでも、高校生の自分にとっては新鮮に映りました。徳島大学以外の大学のオープンキャンパスには行っていないこともあって、なんだか図書館で古い本を見つけたような感覚がありました。いろんなものが詰まっている、自分の知らない世界がここに広がっている、という感慨があり、このとき徳島大学志望を固めました。

入ってみてー「便利さ」により得られた「目線」

総合科学部という比較的珍しい学部のあり方については、入ってから選べるというのが一番のオシだし自分でも利点だと思っています。失礼かもしれないが便利です。

先に言ったような長所を最大限生かす人もいますが、逆に最初から専門的に学びたい人にとっては 1 年のうちで絶対やらなければいけない一般教養はうっとおしく感じると思います。私は他の授業から学ぶこともあると思いますが、人によっては邪魔かもしれません。

他の授業で学んだことが自分の研究に影響している点は今のところありませんが、物事の考え方に影響を与えられた気がします。あるできごとを一般的な一方向からの目線ではなく、違った目線から見るという姿勢が身についたように思います。一つの物事に対して見方はいっぱいあります。自分では思いつかない目線で見られていたりしますが、それを意識して自分で出来るようになったかと思います。

おいしいところー学外活動で得られたもの

授業が終わったあとの時間利用はほとんどアルバイトでした。そのアルバイトを通して人に接するときの態度、言葉づかいはなんとなく分かるようになりました。以前は初対面の人と話すのが苦手だったのですが、明るく社交的になれたと思います。このように比較的時間に余裕のある時間割を組むことが可能であるのは総合科学部のおいしいところだと思います。